

上伊那地区労組会議

沖縄・高江報告

2016年8月16日

「沖縄・高江のいま・・・」

海兵隊のサバイバル訓練はまだ必要なのか！

8月5日18時、石川県平和運動センターから派遣された中村氏と那覇空港で合流し、レンタカーを借りそのまま高江へ向かった。

移動中は所々晴れているような感じでしたが、22時ようやく高江のN1裏ゲートに到着するなり土砂降りに、それまでの星空が一転した。ただでさえ暗いヤンバルの中に大雨、しかし、山城議長の呼びかけに参集した人は300人を超えていました。この日は18時から集会が開催され、赤嶺政賢、福島瑞穂、山本太郎さんら国会議員をはじめ、沖縄県議会、各市町村議会議員も含め1,000名が集い現状の報告などがされ、明日、政府が行動に出た時の対処方法などを伝えたあと、一端解散したようですが、寝ずの番も必要で、残った方々がテント内での即席コンサートに激励されながら朝まで待機されたようです。

私達は到着後N1ゲート裏を確認したあと一端車に戻り、状況が読み切れていない不安からN1ゲート裏へ通ずる新川ダムにて翌朝まで待機することに。

一体なんのために沖縄は高江まで来たかという、高江を走る国道70号線に面した米軍北部訓練場。この中に通ずるN1というゲートがあります。1996年12月のSACO合意のなかで、北部訓練場過半の返還と引き換えに、返還される区域のヘリパッドを北部訓練場の残余部分に移設することが盛り込まれました。しかし、この時点では、このヘリパッドにオスプレイが配備されるということは明らかにされていなかったようです。

ヘリパッドは高江集落を囲むように建設される予定であり、地域住民は深刻な騒音と低空飛行の危険に晒されることになることから、2007年7月2日から、ヘリパッド建設に抗する座り込みが続けられてきた。

これまでの9年間、ヘリパッド工事反対派が防衛局の進入や工事資材の搬入をさせないため、このN1ゲートを塞いで守ってきましたが、2016年7月22日早朝に、突然多数の車輛で道路を塞ぎ、「危険」という理由で工事反対派や単に職場へ行くために国道を通る沖縄県民、そして道路を管理する沖縄県の職員も入れず、数の力で一気にゲート前を塞いでいた物をすべて撤去しました。当然体を張って反対していた住民なども、力づくで排除され、6人が救急搬送される事態に。

人を物としか扱えない、本来国民を守る立場の機動隊員が、安倍晋三の言いなりになって事をこなす。何でこの場所がこのような状況になっているのかの理由はほとんど知らない隊員達。事が済めばカヌチャベイリゾートホテル（新基地完成の暁には、このリゾートホテルは政府が取得し、自衛隊の宿舎に転用されるとのうわさも）で次の出勤まで暇を過ごす。我々の税金が、考えられない金額が投入されている事実。

自民党が選挙で負けた腹いせか、それでも我々に刃向かうかと言わんばかりのすさまじい闘いが、高江で連日繰り返されています。



そして、防衛局がN1ゲート裏のテントへ貼り付けていった一枚の通達書。これには、8月5日までにN1ゲート裏に構築したすべての物を撤去せよと記載されていたことから、これに対抗するため全国に呼びかけられ、毎日高江に多くの方々が集まっています。

N1ゲート裏に建てたテント。この場所はこれまでは国有地として認識してきた防衛局であるが、実は民有地と書かれた書類が出てきてしまった。この文書は防衛局と森林管理署で取り交わされていた正式な文書であり、関係する政府機関はこれをミスと弁明するも、「はい、そうですか」では済まされない事実であり、当然弁護士を通してはっきりさせる必要がある。これはこれで時間がかかりそうな状況。

さらには、米軍基地内といえども国有林であり、すでに森林管理署とは米軍基地内の国有林を伐採する場合は事前に申請・承認が必要と文書で取り交わされていた事実も防衛局は無視し、すでに広範川の森林を伐採している状況。国会議員を通して森林局に、防衛局の行っている伐採を即時中止させることを要請するとともに、現地調査をするよう要請しているが、当然、防衛局は受け入れるはずもなく、これについても弁護士を通じて司法判断を仰ぐ事になる状況です。

政府のあまりにもデタラメな対応には呆れるばかりであり、この現状を多くの方が世界へ発信されています。

つかの間の晴れ間となった6日の朝5時、現地で集会が行われ以上の報告を受けました。とりあえず9時まで政府の出方を見て、何もなかったら本日は終了し、明日7日は18時集合で8日の行動に待機したいとの要請を受け、現地で時間まで待機していましたが、一時間毎に機動隊員が数人テント前まで来ては様子をうかがい引き返すことを終日繰り返し、防衛局は自前で雇ったガードマン（アスロック）を従えて、集会が行われる時間を見計らってはテント前で、何をしてもなくただ突っ立っていました。

さらには、公安の車（とはいってもレンタカー）がやはり一定間隔で来てはビデオ撮影していました。防衛局がテント前で突っ立ってる意味は、撤去の通達を出したことからテント前にいるのでしょうか！当然邪魔ですから工事反対派から浴びせられる質問にも、ただただ無言で通すため必然的に罵声に変わるも、じっと突っ立ってる職員。ガードマンも体格はいいけどなにをすることも無く時間がくれば消えて行く。

翌7日は、4時に名護のホテルを出発し現地に向かう。到着後朝の集会が行われ、昨日からの状況報告を受けましたが、政府の動向が読めないため現地で待機。

地元（右の写真）の方から、基地内への資材運搬状況を説明いただきましたが、毎日ダンプ数台から10台が、その前後に沖縄県警のパトカーが2～3台ずつ配置され、次に防衛局の車両と公安の車両が警備について編隊を組んでのろのろ輸送しているそうです。すでに多くの資材が搬入されているようですが、これまでの雨で訓練場内が崩落しているため、この対応に膨大な砂利等が搬入されているようです。その改修が終わった段階で、N1ゲートから搬入した資材を、ヘリパッド建設地点まで輸送路を作っていくようですが、先に書いた国有林の伐採に不手際があったため、こちらも今後の予定が立っていないとの報告を受けました。

ただし、いざ工事が始まれば2週間以内にこのN1ゲート



裏まで到達するのではとの事です。

この日も、機動隊・公安・防衛局は昨日と同じ行動をとっており、9時過ぎ、燃料を入りに70号線を北上していたところ、突然機動隊が道の両側に配置された状態で出現するや、私達の車を停車させました。誠に丁寧な言葉で「しばらくお待ちください」などと言っていましたが、そこにパトカーを先頭に資材輸送ダンプが。私達の前には乗用車が車線中央より停車しており、反対車線にも乗用車が停車し、輸送軍団を阻止するべく行動を起こしているところでした。

警察・機動隊とのにらみ合いが毎日続いている高江ですが、この行動にはそれぞれの意思疎通された呼吸が必要で、昨日、今日来た私達にはできないかと、事を確認し通り過ぎました。



18時から午後の集会が始まり、これまでの報告とこれからの状況説明を受けました。衆議院議員の赤嶺政賢氏は、ほとんど毎回参加されており、なかなかできる事ではないと思います。現地でも信頼がとて厚い議員さんです。

集会は1時間30分くらいで終了し、解散後食事が配られ、その後も200名くらいが朝までテントや車に待機したようです。連帯を深めるためコンサートや全国から来た支援者が交代で高江・辺野古に対する思いなどを発表し合っているとのことですが、翌日帰路につく私達は集会終了後高江を後に名護へ戻りました。



今回の高江の参加でわかったことは、政府は沖縄の民意を無視し続けているということ。一昨年、訪米したときに、勝手にオバマ大統領に新基地建設の完成を約束してきた手前、米国からも信用不振に思われていることを恨み、基地建設反対派に対して容赦ない行動を行ってきています。また、沖縄県への予算化削減もちらつかせ、言うことを聞くよう仕向けているお粗末な政権。

ただ、反対派もこのままの状態が続くと、あらゆる面で不利であることから、全国からの支援（資金・動員）体制を整える必要があると感じました。

●全国各地の平和フォーラムから毎日決まった人数が高江に動員できる体制を作ること。

いくら現地の方々が集まるとはいつでも、日々変わります。多勢の相手をする以上それなりに準備が必要。

●支援団体や関連組織まで、情報を提供し支援を要請する。できることなら、三役など中心的人物が現地へ出向き状況を直に確認し、構成組合員への報告と協力を要請する。

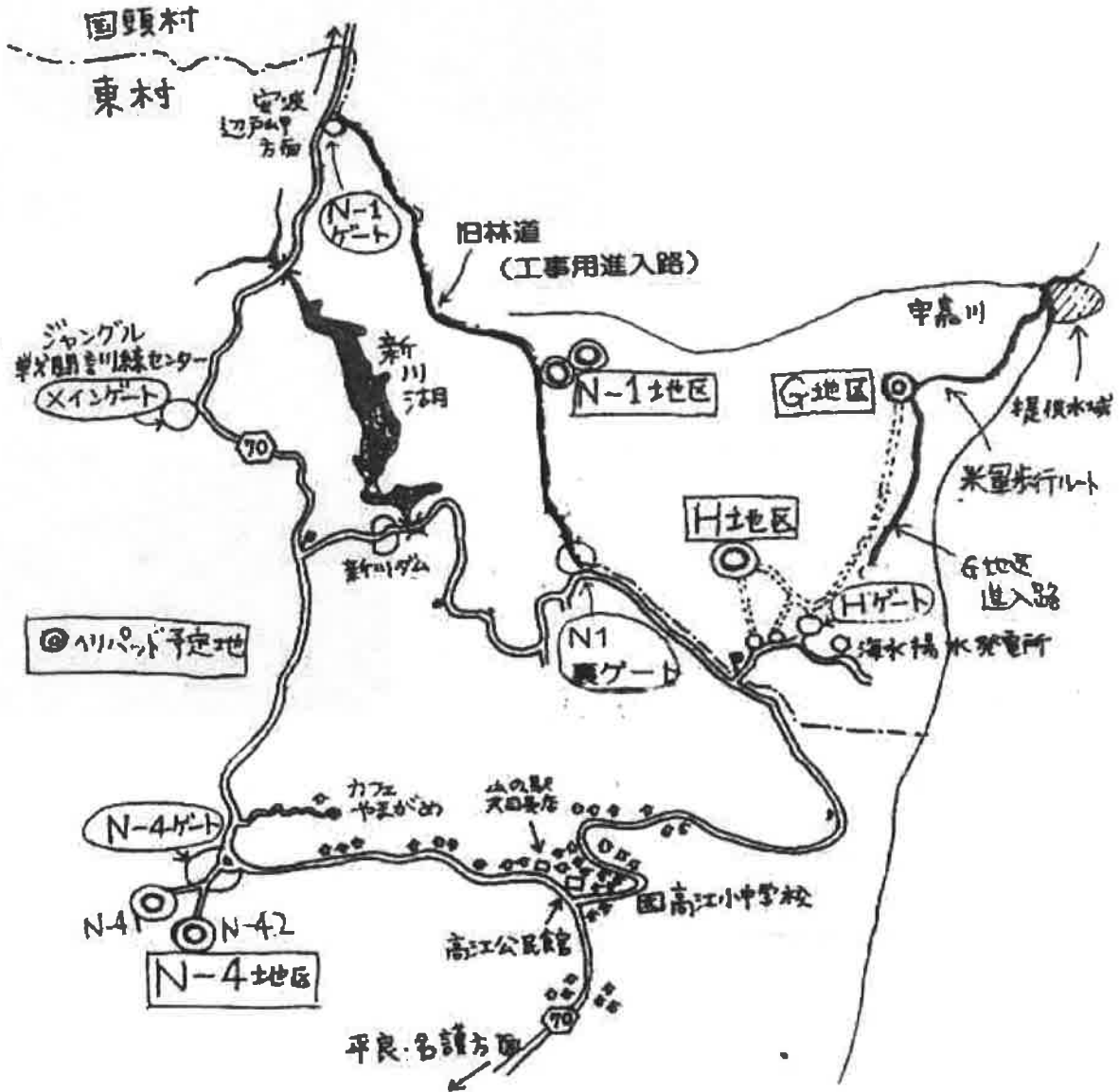
●運営資金として高江基金が始動しました。是非この基金への賛同に取り組む。

今は、政府サイドの手落ちで様々な問題があるため、強行策には出てこないように感じますが、こちらの体制を調査しながら、その時期を探っているように感じました。別紙の高江ヘリパッド配置図からも、N1裏ゲートへ通じる農道は狭いため、大型車は進入できませんので、N1ゲートからの輸送路確保が大前提かと考えます。また、運用できなくなった海水揚水発電所からヘリパッド建設場所への輸送ルートも要チェックかと考



えますので、上空からの逐次調査が重要かとも感じました。

移設ヘリパッド建設略図



- ★N 4 地区の 2 カ所のヘリパッドは完成済み
- ★N 1 地区の隣接するヘリパッドも、今後工事が進められることになる。これが完成すると、オスプレイ二機が同時に兵員の輸送訓練をすることができるため、さらなる騒音問題が発生することになる。また、事故の確率も高くなるとのこと。
- ★H地区・G地区は海岸線に近く、海上からの上陸訓練ができるようになるとのこと。これまでになかった輸送船（揚陸艦）を使った訓練が行われることになる。